

2019年度 KIPP 精神分析セミナー・プラス

KIPP 精神分析セミナー・プラスは従来のセミナーとは違い、「もっと気軽に精神分析について学びたい」「初心者にもやさしい精神分析の基本を学習したい」「自分の臨床の現場に役立つ身近な精神的アプローチを身につけたい」という声を受けて企画した、短期間あるいは少人数のセミナーです。臨床に直結した多彩なプログラムでそれぞれの分野で活躍されている臨床家が講師として、2019年度は8つのセミナーを開催します。初心者から経験に富んだ先生方まで、たくさんの臨床家の先生方のご参加を心よりお待ちしております。

【受講申込方法】

受講希望回の QR コードを読み取り、必要事項をご入力の上、お申し込みください。ホームページからもお申し込みいただけます。 <https://www.kippkyoto.org/>

① 日常臨床における転移・逆転移の理解に焦点化した GSV

日時：2019年5月25日(土)・6月22日(土)・7月27日(土) いずれも 14:00~17:00

講師：馬場 天信 (追手門学院大学)
会場：KIPP 桃山心理オフィス (京都市内)
定員：4~5名
受講料：(全3回合計) 一般 18,000円
学生 15,000円



② Erich Fromm 「聴くということ」を読む

日時：2019年6月1日(土) 18:00~20:30
講師：長川 歩美 (A&C 中之島心理オフィス)
会場：A&C 中之島心理オフィス (大阪市内)
定員：10名
受講料：一般 3,000円
学生 2,000円



③ 初期面接のポイントとケースフォーミュレーション

日時：2019年8月7日(水)・8月21日(水) いずれも 19:00~21:30

講師：宮田 智基 (関西カウンセリングセンター)
会場：関西カウンセリングセンター 8階研修室 (大阪市内)
定員：30名
受講料：(全2回合計) 一般 7,000円
学生 6,000円



④ 対人関係精神分析の技法：転移への取り組み方と detailed inquiry

日時：2019年9月11日(水)・9月25日(水) いずれも 19:00~21:30

講師：宮田 智基 (関西カウンセリングセンター)
会場：関西カウンセリングセンター 8階研修室 (大阪市内)
定員：30名
受講料：(全2回合計) 一般 7,000円
学生 6,000円



⑤ 一者心理学から二者心理学へ：理論と技法の進化

日時：2019年10月26日(土) 17:00~20:00

講師：横井 公一 (微風会 浜寺病院)
会場：阪急淡路駅周辺 (大阪市内)
定員：10名
受講料：一般 3,000円
学生 2,000円



⑥ エナクトメント入門② ー心理療法におけるエナクトメントの臨床的意義ー

日時：2019年11月9日(土) 18:00~20:30

講師：長川 歩美 (A&C 中之島心理オフィス)
会場：A&C 中之島心理オフィス (大阪市内)
定員：10名
受講料：一般 3,000円
学生 2,000円



⑦ こころの出会い (Lewis Aron)：精神分析における相互性について

日時：2019年11月30日(土) 17:00~20:00

講師：横井 公一 (微風会 浜寺病院)
会場：阪急淡路駅周辺 (大阪市内)
定員：10名
受講料：一般 3,000円
学生 2,000円



⑧ 精神分析的な心理療法の基礎と実践

日時：全4回(土日祝 9:00-12:00 または 13:00-16:00 で申込者と相談)

講師：辻 啓之 (京都精神分析心理療法研究所)
会場：KIPP 天満橋心理オフィス (大阪市内)
定員：3~6名
受講料：(全4回合計) 一般 15,000円
学生 12,000円



① 日常臨床における転移・逆転移の理解に焦点化した GSV

講師：馬場 天信（追手門学院大学）

精神分析的心理療法の視点から治療関係を考えるうえで重要となる鍵は転移、逆転移、エナクトメントを含めた関係性の理解だと言えます。その前提には、アセスメント面接による見立ての理解や作業同盟の基盤となる設定を含めた治療契約があり、その上で様々な治療関係や相互交流が展開します。治療関係を理解する鍵は、クライアントの主訴や生育歴に基づいた対人関係のパターンの理解、重要な他者との関係性の歴史、そして現実の治療外における最近の関係の3点であり、これは「転移の三角形」としてよく言われています。私設開業臨床であれば、転移や逆転移を理解しやすい治療構造や設定をつくりやすいと言えますが、実際の日常臨床ではアセスメント面接に回数をあまりさけない場合や治療環境のニーズから頻度を少なくせざるを得ない場合も多いと思います。その場合は様々な現実的な要素も入り込みますから、転移・逆転移やエナクトメントといった治療関係を理解しにくいとも言えます。本セミナーでは、現在臨床を行っている現実的環境の中で治療関係や転移・逆転移をどのように理解していったらよいかを考えることに焦点をあてたグループ・スーパーヴィジョンを行います。初回は転移や逆転移に関する概念や実際について理解する講義を中心に行い、2回目と3回目は参加者が治療関係で何が起きているかを理解したい事例素材を発表してもらい、ディスカッションやコメントを通してそこで生じている関係性の理解を皆さんと深めたいと思っています。本セミナーは、普段の臨床実践に精神分析的な視点を取り入れ、転移・逆転移という関係性を理解する手がかりを得たいと思っておられる、大学院修了者から臨床経験が10年程までの方を念頭に行う予定です。

② Erich Fromm 「聴くということ」を読む

講師：長川 歩美（A&C 中之島心理オフィス）

Fromm の理論は、現代的な貢献可能性が注目され、国際的には様々な精神分析、社会学の論文や専門書、学会等で取り上げられています。しかし日本では、精神分析のセミナーのメインタイトルに Fromm の名が挙げられることは、ごく少ないようです。つまり、広く長くその重要性が認められながら、その臨床的専門性に触れる機会が限られているということです。その理由の1つには、ライナー・フンク氏が挙げているように「Fromm のセラピーの方法に個性ある部分があったとしても、それは『精神分析的技法』としてひとくくりにされるようなものではない」からなのでしょう。

この時間では、Fromm のセミナー講義録である『聴くということ』（第三文明社）の内容から、Fromm の精神分析の特徴について紹介し、ある事例についての Fromm のスーパーヴィジョンを通じて、受講者のみなさんと一緒にそのエッセンスを理解することを試みたいと思います。

③ 初期面接のポイントとケースフォーミュレーション

講師：宮田 智基（関西カウンセリングセンター）

1 日目は、初期面接のアセスメントの観点として、対人関係精神分析の『ケースフォーミュレーション』を中心にお話をします。サリヴァンのパーソナリティ理論には、『パラタクシスの歪曲』や『安全保障操作』、『セルフシステム』といった難解な用語がありますが、それらを平易な言葉でご説明したいと思います。初日に「知っておきたい対人関係学派の基礎知識」を網羅しておきたいと思います。

2 日目は、初期面接の中でクライアントとどのようなやりとりをすれば良いのかという、「カウンセリングの立ち上げ方」についてお話をします。「主訴」の背景にある心理的要因を明確化し、クライアントの問題についての「見立て」を伝え、カウンセリングの目標を共有していくために、クライアントとどのようなやりとりをすれば良いのか？こうした「カウンセリングの立ち上げ方」の実際について、しっかりと考える時間にしたいと思います。

なお、本セミナーは、2 年前に KIPP 精神分析セミナー・プラスで行ったものと同じ内容です。

④ 対人関係精神分析の技法：転移への取り組み方と detailed inquiry

講師：宮田 智基（関西カウンセリングセンター）

1 日目は、対人関係精神分析の中心的技法である『detailed inquiry（詳細な質問）』についてお話をします。『detailed inquiry』では、単なる情報収集を目的とはせず、クライアントの好奇心を喚起して体験探索に誘い、クライアントの情緒体験をともに吟味し、共有していくプロセスを重視します。そのために、どのようなポイントを、どのような言葉で尋ねてゆけばよいのかについて考えてみたいと思います。

2 日目は、「転移への取り組み方」を中心にお話をします。『detailed inquiry』が最も重要になる局面は、今、ここでの「転移・逆転移状況の吟味」であると言えます。自らの逆転移感情をもとに面接関係で何が起きているのかを吟味し、『detailed inquiry』をしながらクライアントの中核的な葛藤や情緒、対人関係のパターンを共同で探索していきます。そして、『解釈』をしてセラピストの理解を伝えたり、時にはセラピストの逆転移感情を開示したりすることもあろうでしょう。そうした「転移への取り組み方」について考えてみたいと思います。

なお、本セミナーは、2 年前に KIPP 精神分析セミナー・プラスで行ったものと同じ内容です。

⑤ 一者心理学から二者心理学へ：理論と技法の進化

講師：横井 公一（微風会 浜寺病院）

米国の精神分析は、1980年代に「関係性への転回 Relational Turn」という動きが起り、それまでの一者心理学（患者のこころを扱う心理学）から二者心理学（治療者と患者の関係性を扱う心理学）へと精神分析の理論と技法が変化していきました。そのようななかで生まれたのが「関係精神分析 Relational Psychoanalysis」という学派です。このセミナーでは、フロイトの欲動理論から対象関係論へ、そして関係精神分析へと向かう理論と技法の変化を、初心者にもわかりやすく講義します。

⑥ エナクトメント入門② 一心理療法におけるエナクトメントの臨床的意義一

講師：長川 歩美（A&C 中之島心理オフィス）

現代の精神分析において、もっとも重要視されている概念の一つであるエナクトメント（Cl の転移、Th の逆転移、そして Cl と Th の間の無意識的な相互交流が、セラピーの場におけるそれぞれの振る舞いや2人の間の関わり合いとして現れること：小松、2014）とは一体どのような現象なのでしょう。またその理解を、私たちはどのように日々の臨床に活かしていくことができるのでしょうか。

この時間では、昨年に引き続いて、まずエナクトメントがどのような概念であるかということを入門的に紹介します。それから、実際の事例の中に、エナクトメントがどのように立ち現われてくるのか、それをどのように理解し、扱っていくことがセラピーに寄与するのか、という臨床的意義についてお話ししたいと思います。

⑦ こころの出会い（Lewis Aron）：精神分析における相互性について

講師：横井 公一（微風会 浜寺病院）

関係精神分析の理論家ルイス・アロン（Lewis Aron）の著書「こころの出会い A Meeting of Minds」について学びます。ルイス・アロンはスティーヴン・ミッチェルの亡き後、国際関係精神分析学会の初代会長となり、関係精神分析を牽引してきた理論家です。アロンは「相互性 mutuality」という概念を軸にして、関係精神分析の理論と技法を探究しました。惜しくも本年2月28日に他界されましたが、このセミナーではアロンの精神分析における「相互性」の考え方について講義します。

⑧ 精神分析的心理療法の基礎と実践

講師：辻 啓之（京都精神分析心理療法研究所）

昨今の本邦の心理臨床家の活動領域において、精神分析的心理療法が主たる業務とされる現場は多くない。しかし、精神分析的心理療法の訓練を受け、その基本を身に付けると、それぞれの現場に応じて精神分析の知見を活用することができるようになり、心理臨床家としてのアイデンティティが安定していく。

本セミナーは、精神分析的心理療法の基本を理解し、各現場での実践に取り入れられるようになることを目標とし、全4回のグループワーク形式で行う。毎回前半は文献演習、後半は事例検討を行う。テキストは『精神分析的心理療法の手引き』 鐘幹八郎監修（誠信書房）、各回のテーマは、①精神分析的心理療法とは、②精神分析的心理療法の基本概念、③精神分析的心理療法の基本技法、④スーパーヴィジョン、事例検討会、個人分析とする。事例は精神分析的心理療法であることにこだわらず、それぞれの現場での臨床実践を素材としたい。